

6年担任 向井 周 教諭 の紹介

コミュニケーション能力を高めて生かす

4月の学級開きにおいて、級訓を決めるために、子どもたちが真剣に話し合う姿から、自分たちの1年間をよりよいものにしようとする強い意欲の表れを感じました。向井周教諭は、その前向きなエネルギーをしっかりと受け止めながら、さらに一步踏み込んだ指導を行っています。

話し合いの場面では、当初、自分の意見を強く主張する一方で、他者の意見に十分耳を傾けられない様子や、感情的な言葉が飛び交う場面も見られたとのこと。こうした姿は、多くの子どもたちが経験する成長過程の一つですが、向井教諭はそれを見過ごすことなく、学級全体の課題として丁寧に向き合いました。

特に優れている点は、単なる注意や指導にとどまらず、「相手がどう感じるか」という視点を子どもたちに根付かせようとした点にあります。言葉の使い方や相手への接し方について全員で確認し合うことで、子どもたち自身が「言い過ぎではないか」と気づき、声を掛け合う姿へと変容していきました。このように、子ども同士が互いに高め合う関係を築けるよう導いたことは、まさに教師としての高い指導力の表れと言えるでしょう。

また、「学び合う学習」が自然に行われる学級へと深化していることから、向井教諭が子どもたちのもつ“コミュニケーション力”という強みを的確に見取り、それを「武器」として育てていることがうかがえます。単に秩序を整えるだけでなく、その力を前向きな学びや人間関係づくりへと転換させている点に、大きな価値があります。

また、「学び合う学習」が自然に行われる学級へと深化していることから、向井教諭が子どもたちのもつ“コミュニケーション力”という強みを的確に見取り、それを「武器」として育てていることがうかがえます。単に秩序を整えるだけでなく、その力を前向きな学びや人間関係づくりへと転換させている点に、大きな価値があります。

少人数であるがゆえに固定化しやすい人間関係に対しても、向井教諭は温かな関係性へと変えていこうとしています。互いのよさを認め合う言葉が飛び交う学級づくりを目指す姿勢は、子どもたち一人一人の自己肯定感を高めるとともに、集団としての質の向上にもつながっています。

